



# 大門小だより

## 6月号

大門大好き いい仲間 進んで学ぼう 元気な子



令和3年5月28日  
横浜市立大門小学校

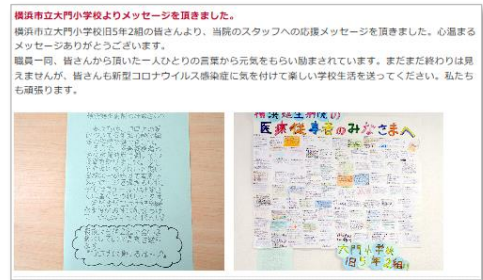


パートナーシップで目標を達成しよう

副校長 佐々木 一高

日を追うごとに気温も上がり万物が次第に長じて天地に満ち始める時季となりました。夏の語源は、「暑（あつ）」の音が「なつ」に変化したともいわれます。享保18年（1733年）、畿内を中心に飢餓に見舞われたころ、江戸ではコレラが流行して多数の死者が出たそうです。そして、徳川吉宗がこの慰霊と厄祓いとして両国川（隅田川）で花火を打ち上げたのがこの花火大会の始まりとされています。現在のコロナ禍においても、急速に従来株から変異株への置き換わりが進み、ますますの不安を覚えるところではありますが、対策を講じた様々な教育活動の実施が少しでも前向きな気持ちへの転機を促してくれるものと信じています。

さて先日、横浜甕生病院の方が来校され、昨年度5年2組の総合的な学習が取り組んだ医療従事者に向けた応援メッセージに対する感謝と、澤田病院長からのお返事の手紙をいただきました。手紙には、新型コロナが本当に怖い病気であることや自分だけでなく家族にもうつってしまう病気であることなど、子どもにも分かりやすい説明がありました。そして、地域みんなの命を守ることが使命だと思って勇敢にコロナと戦っている職員の姿とともに、大門小学校からの応援メッセージは涙が出るほどうれしく、これからも頑張りますので応援してくださいと結ばれていました。まちとのつながりをますます感じた出来事でした。



横浜甕生病院 HP より



つながりといえば、瀬谷駅にあるスポーツクラブNAS様との連携事業があげられます。今年2月は流行りのアニメ曲を利用したダンス教室（3年）を行い、6月からはスポーツクラブのプール施設をお借りした水泳学習を順次全学年で行う予定です。今年度の水泳学習への挑戦は市モデル事業として位置づけられました。雨や風、埃、熱中症、紫外線に左右されることのない室内は通年の利用が可能であり、換気能力も1時間に7回とのこと。学校の2倍近くあるプール幅、適切に衛生管理された温水（31℃）や温室（33℃）はいつでも快適であり学習意欲も湧くことでしょう。さらに、NASスタッフが学習場面や緊急時対応の補助として加わり、安全・安心面が大きく向上することが予想されます。本校職員も新しい取組に少なからず戸惑いもありますが、コロナ禍においても持続可能な取組を創造し挑戦してまいります。スポーツクラブNAS様とのパートナーシップによる目標達成に向けた取組へのご理解ご協力をよろしくお願い致します。

19日、「大門サポーター」募集のご案内を差し上げました。横浜市は第3期横浜市教育振興基本計画において、令和4年度末までにサポーターの窓口となる地域学校協働活動委員（学校・地域コーディネーター）の全校配置を目標に掲げています。すでに多くのパートナー（協力者）に囲まれた大門小においても、配置の検討を進めてまいります。パートナーシップに恵まれた大門小がこれからも持続しますよう、今後とも保護者、地域の皆様のお力をお貸しくださいませ幸いです。